

13 生涯学習のまちづくり			
主管課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課		
主管課長名	佐々木 淳	電話番号	042-481-7541
関係課名 （組織順）	協働推進課, 男女共同参画推進課, スポーツ振興課, 環境政策課, 社会教育課, 公民館, 図書館, 郷土博物館		
目的	対象	市民	
	意図	生涯にわたり学習し, 学んだことをまちづくりに生かす	
施策の方向	市民が生涯を通じて学習に取り組み, いきいきと豊かな人生をおくることができるよう支援するとともに, 学んだ成果が市民同士の交流やまちづくりに生かされるよう, 生涯学習を振興していきます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和2年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
<p>（13-1 学びのきっかけづくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な学びのきっかけづくりとして生涯学習出前講座を113講座設け, 令和2年度は57回実施した。（そのほか新型コロナウイルスの影響により10件の実施取り止めあり） 市民が生涯学習の楽しさを知り, 地域との関わりを持つ機会を提供することを目的とした生涯学習サークル体験事業について, 15サークルが実施し, 延べ27人が参加した。また, 「サークル体験 in みんなの広場」を4回実施し, 延べ30人が参加した。 学びに関する情報提供及び相談について, 生涯学習情報コーナーと市民活動支援センターが拠点となり, 幅広い情報収集と提供に努めた。また, 社会教育情報誌「コラボ」を1回発行（年3回発行予定のうち, 新型コロナウイルスの影響により2回を休刊）し, 市内の小・中学校・社会教育施設に配布するなど社会教育に関する様々な事業や情報の周知を図った。 図書館では, 新型コロナウイルスの影響により中止となった事業もあるが, 講演会や読書会等の啓発事業を実施するとともに, 図書館だよりの発行等を通じた図書館活動のPRを行った。子どもたちへの取組としては, 小学生読書会やおはなし会, 小学校と連携した図書館ガイダンス等を実施したほか, 新型コロナウイルスの影響による図書館休館中に, 子ども向けの本をえらぶためのリストや自宅での学習に役立つサービスの情報, 図書館公式キャラクター「じろ」のぬりえ等, 自宅で過ごすための情報を図書館ホームページで発信した。 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びに関する情報提供において, 生涯学習情報コーナー及び市民活動支援センターの連携の下, 「ちょうふ地域コミュニティサイト（ちょみっと）」と生涯学習情報専用ページ「生涯学習情報コーナー」を連動させながら, 引き続き積極的な情報発信を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 シニア世代に向けては, 地域活動を始めるきっかけづくりとして, 市民活動団体との協働により地域デビュー事業を推進しており, 令和2年度は, 新型コロナウイルスの影響により地域デビュー歓迎会など多くの事業が中止を余儀なくされたが, 調布の魅力を見つめ直していただく学習会&徒歩ツアーを開催し, 59人が参加した。 ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 外出自粛要請に伴うSTAY HOME 期間中に, 自宅で学べて楽しめる2019年・2020年関連コンテンツをホームページ等で発信した。 	
<p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職である調布市生涯学習まちづくり推進員が, 文化会館たづくり11階の調布市生涯学習情報コーナーにおいて, 市内で活動する各種サークル・団体情報, 講師情報等の情報提供や相談を行っている。 	
<p>（13-2 学べる機会の充実）</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館では, 市民の多様な学習ニーズに応えるため, 図書や雑誌など新たに約5万点を受け入れるとともに, 年間延べ約194万点の貸出しを行ったほか, 調布市に関する新聞記事・ポスター等の地域資料のデジタル化を推進した。 新型コロナウイルスの影響により中止となった事業もあるが, 公民館では, 講演会・市民講座・高齢者対象事業・市民文化教室・国際理解・家庭教育・青少年対象事業・平和祈念などの多様な事業を展開, （公財）調布市文化・コミュニティ振興財団では, 「ちょうふ市民カレッジ」として, 美術, 陶芸, 音楽, 映像, 古典・伝統など幅広い分野における講座を実施し, コロナ禍においても学習活動の機会の確保に努めた。 市と相互友好協力協定を締結している7大学等について, 各大学等の魅力を市民へ伝え, 市民の生涯学習にもつながるよう, 市との連携事業や各大学等における市民向けの取組等に関して情報共有を図ったほか, コロナ禍における各大学の取組や学生の生活状況等についてオンラインによる情報交換を行った。 	

①横断的連携による施策の推進

・コロナ禍においても市民に多様な学習機会を提供するため、市民をはじめ、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や相互友好協力協定締結大学、民間事業者等多様な主体との連携を図りながら、内容の充実に努めた。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・図書館がより効果的な学習活動の拠点として機能するよう、多様な資料や情報の収集、整理、提供、保存を行うとともに、だれもが読書や調査をできるよう、音訳、点訳、対面朗読、宅配などサービスの充実を図っている。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団が実施する「ちょうふ市民カレッジ」では、東京2020大会に向け、伝統文化を次世代に継承する講座を実施した。

②調布のまちの魅力発信

・協定大学等との連携において、電気通信大学との共催により「サイエンスカフェChofu」をオンラインで開催した。また、相互友好協力協定大学の研究成果や学びを発表する「調布市協定大学ゼミ展」について、令和2年度は、オンライン開催となったまち活フェスタに出展し、白百合女子大学の児童文化学科制作ゼミが研究内容や作品紹介を生配信したほか、令和元年度調布市協定大学ゼミ展の映像を放送した。

・図書館では、水木しげる氏の著作を収集・提供し、その人生や平和の思いの普及・継承に努めているほか、映画資料の収集・提供を通じ、映画のまち調布の推進を図っている。

(13-3 団体の学びの活動支援)

・サークルガイドブックの発行や生涯学習サークル体験事業の実施などにより、生涯学習サークルの会員増に努めるとともに、団体の活性化に向けた支援を行った。

・市民や生涯学習・市民活動団体が自由に生涯学習活動を行う場である「みんなの広場」について、令和2年度は利用を停止した期間もあったが、1577団体、6492人が利用し、個人学習利用394人と合わせると6886人が利用した。

・社会教育分野では、市民の自主的な学習活動をサポートする学習グループサポート事業を実施し、9グループの活動を支援することにより、共同学習・相互学習の推進を図った。また、小・中学校のPTAが企画運営し、保護者や地域住民に対して学びの場を提供する「家庭教育セミナー」については、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響に伴い実施がなかった。

・図書館では、生涯学習団体との連携の下、市民の読書・文化活動を推進し、毎年2月に開催する「調布樺まつり」など中止となった事業もあるが、文芸講演会、公開講座などを実施した。

①横断的連携による施策の推進

・文化会館たづくりや図書館、公民館など市内の生涯学習・社会教育施設が連携しながら、市民や生涯学習・市民活動団体が活動を行うことができる場の確保を図り、「学び」の活動支援を行っている。

②調布のまちの魅力発信

・文化会館たづくり11階「みんなの広場」は、生涯学習・市民活動団体等による作品展示の場としても活用されており、令和2年度は、12体が展示を行った。

(13-4 まちづくりへの学びの成果の活用)

・地域デビュー事業における学習会&徒歩ツアーでは、既に地域での活動を始めている市民を講師として、「調布と京王線」をテーマに参加した市民に調布の歴史や魅力について講義していただいた。

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では、芸術・文化の裾野の拡大と普及を目指すために市民が講師を務める「市民講師講座」を1講座開講した(新型コロナウイルスの影響により2講座が中止)。

・「学んだことを役立てる場面があれば提供したい」というサークルと「ボランティアでイベントへの出演や一緒に学習していただける方の派遣をお願いしたい」という地域団体等をつなぐため、ボランティアに協力いただけるサークルを1冊にまとめた「生涯学習サークルボランティアメニュー」を発行した。

①横断的連携による施策の推進

・生涯学習情報コーナーや市民活動支援センター等において、生涯学習で身につけた知識・技能や経験を、ボランティア活動等に生かそうとする人と、地域人材を求めている人や場をつなげるコーディネートを行い、市民の活動を支援している。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・高齢者が健康を維持しながらいきいきと豊かな人生を送ることができるよう地域活動に参加するきっかけづくりや機会の創出を図る地域デビュー事業の企画・運営については、自身が地域デビュー事業に参加したことがきっかけで地域デビュー推進委員会に加入した方々が担っている。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・東京2020大会に向けた「調布市おもてなしボランティア」が、環境部が実施した「飛田給駅前及び調布駅前クリーン作戦」に参加した。

②調布のまちの魅力発信

・市民で組織された地域デビュー推進委員会との協働により地域デビュー事業を展開しており、各事業の企画・運営等も推進委員会が担っているが、推進委員会自体が地域デビューの受け皿としても機能している。

<令和2年度における施策の成果についての総括>

・コロナ禍においても生涯学習出前講座をはじめ、公民館や図書館での各種講座、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団における「ちょうふ市民カレッジ」、相互友好協力協定締結大学との連携事業、市民団体や民間事業者等との連携事業などにより、広く多様な学習機会の提供を図った。

・シニア世代が地域活動を始めるきっかけづくりとして、市民との協働により地域デビュー事業「調布再発見学習会&徒歩ツアー」を実施し、アクティブシニアの地域活動への参加促進を図った。

・協定大学との連携では、電気通信大学との「サイエンスカフェChofu」のオンライン開催に加え、協定大学7大

学等との共催による「調布市協定大学ゼミ展」について、オンライン開催となった「まち活フェスタ」へ出展し、より広く大学での研究成果や学びを発信した。

・図書館では、新たな図書、雑誌などの受入れは約 5 万点、聴覚資料や団体貸出を含めた貸出は年間延べ約 194 万点であったほか、図書館所蔵の地域資料や映画資料をデジタル化し、資料の保存・活用を推進した。

まちづくり指標	基準値 (基準年度)	単位	実績値		目標値
			令和元年度	令和2年度	令和4年度
1 1年間に生涯学習をした人の割合	38.6 (H30)	%	40.0	24.3	40.0
2 社会教育施設の満足度(上段:図書館, 下段:公民館)	68.3 41.2 (H30)	% %	77.9 74.8	80.4 75.4	75.0 50.0
3 生涯学習情報コーナーのアクセス数	8万 3,014 (H29)	件	6万 295	3万 9,848	9万
4 学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合	19.3 (H30)	%	20.6	13.4	25.0
【特記事項】					

2 令和2年度の振り返り — 評価 (CHECK)

◆施策の成果向上に向けて、令和2年度に実施した取組に対する評価

※コロナ禍を踏まえたプロセス、実績、成果の総合的な評価

総合評価	A	S:「実施した取組において顕著な成果が得られた。」 A:「実施した取組において予定した成果が得られた。」 B:「実施した取組において一定程度の成果が得られた。」 C:「実施した取組において予定した成果が得られなかった。」 D:「実施した取組において成果が得られなかった。」
評価理由	・コロナ禍において市民の生涯学習の機会や活動が制限されたことで、「1年間に生涯学習をした人の割合」や「学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合」は、令和元年度に比べ減少しているが、公民館や図書館での各種講座、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団における「ちょうふ市民カレッジ」、相互友好協力協定締結大学との連携事業、市民団体や民間事業者等との連携事業など、それぞれに感染防止対策の徹底やオンラインの活用など、工夫を凝らしながら広く多様な学習機会の提供を図った中で、社会教育施設の満足度は上昇しており、市が目指す施策の方向に向けて一定の成果を得られているため。	

3 施策の方向 — (ACTION)

◆コロナ禍の影響等を踏まえた現基本計画期間内(令和4年度まで)における施策の主な課題と取組の方向

・左欄と右欄において、丸数字で対になるよう記載

主な課題	取組の方向
①多様な学びのきっかけづくり	①市民をはじめ、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や相互友好協力協定締結大学、民間企業等多様な主体との連携を継続しながら、課題改善を図り内容を充実
②生涯学習及び社会教育の推進	②生涯学習、社会教育の推進について、文化生涯学習課、社会教育課、図書館、公民館等関係部署が連携しながら、施策の推進を図るとともに、より効果的な施策の展開に向けて検討
③東京2020大会を契機とした生涯学習の推進	③東京2020大会に向けた取組や大会時におけるボランティア活動を通じた多様な主体との連携による生涯学習の推進、レガシーとして各々が学んだ成果をその後のまちづくりに生かすことができるよう支援

◆デジタル技術を活用した利便性向上や事務の効率化に向けた今後の取組

(オンライン活用、ペーパーレス化、電子申請による手続など)

※重点プロジェクトに関連する取組(★印)、新規の取組(●印)、拡充の検討を要する取組(○印)、左記以外の取組(・印)

- ・オンラインを活用した事業や講座の実施
- ・相互友好協力協定7大学との定例ミーティングをオンラインで実施
- ・図書館等における非来館型のサービスの検討

4 次期総合計画期間を含む中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向）

◆施策を取り巻く状況（国、東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※法改正・制度改正などに加えて、「フェーズフリー」、「スマートシティ」など多角的な視点も含めた状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等	<p>①内閣府が平成30年度に「生涯学習に関する世論調査」実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の状況、社会人の学習に関する考え方、地域や社会での活動に対する考え方などの項目について調査 <p>②文部科学省が平成30年4月に「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組を推進することや、友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実させることが盛り込まれた。 	<p>①③④生涯学習、社会教育の推進について、庁内横断的な連携の下、より効果的な施策の展開に向けて検討を進める中で、「調布市生涯学習振興プラン」及び「調布市社会教育計画」の計画期間終了後を見据え、今後の生涯学習振興及び社会教育振興の連携の方向等について課題整理</p> <p>②「第3次調布市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの発達段階に応じた読書環境の整備・充実を図り、家庭・地域・学校・行政が連携して、子どもの読書活動を推進</p>
東京都や近隣自治体の動向等	<p>③東京都生涯学習審議会条例が改正され、東京都生涯学習審議会と東京都社会教育委員の機能が統合されるとともに、東京都社会教育委員の設置に関する条例が廃止された。（東京都 平成26年4月1日施行）</p>	
その他	<p>④「調布市生涯学習振興プラン」及び「調布市社会教育計画」の計画期間がともに令和4年度まで</p>	

1.3 生涯学習のまちづくり

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	事務事業の概要
1	学習活動及びまちづくりへの参加の促進		●	文化生涯学習課	市民一人一人の知識や経験を生かし、地域で活躍してもらえるよう、市民団体、大学、民間事業者等との協働により、地域デビュー歓迎会やサークル体験事業のほか、様々な生涯学習講座を実施し、各種活動への参加のきっかけづくりを行う。
2	市民の読書・調査活動への支援		●	図書館	市民の生涯学習・文化・生活を支えるインフラとして、暮らしに役立つ魅力ある図書館を目指してサービスを実施し充実させる。また、市民に身近な機関として機能するよう、人材育成に努める。一般書・児童書・地域資料・映画資料・電子資料・雑誌・新聞等、各世代に求められる資料・情報を選定・収集・整理・提供・保存する。貴重な地域資料等を活用するためにデジタル化を行う。市民からの多様な資料要求に corres 応するため、資料目録データを整備し、貸出・検索・予約等に係るシステムの利便性を高める。蔵書の新鮮さを保つため、年数を経た資料は修理・製本・除籍を行い、資料的価値を考慮して保存庫等で所蔵する。音訳、点訳、宅配等により、誰もが生涯学習に取り組めるようにする。

13 生涯学習のまちづくり

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

No.	事務事業名	重点プロジェクト事業	総合戦略	所管部署	R2決算事業費(千円)	令和2年度の実績	実績評価	進捗状況・今後の取組の方向										
								R2取組実績				方向						今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関連する内容は冒頭に◆印を記載しています)
								計画前倒し	計画どおり	計画遅れ	コロナ影響	有効性改善	効率性改善	財政面改善	参加と協働改善	現状継続		
1	学習活動及びまちづくりへの参加の促進		●	文化生涯学習課	251	地域デビュー事業では、新型コロナウイルスの影響により、「地域デビュー歓迎会」や「セカンドライフ応援講座」など多くの事業が中止となった一方で、地域デビュー推進委員会と連携し、例年バスを使って実施している「調布再発見ツアー」について、徒歩のみとするなど感染防止対策を講じ、実施した。また、地域デビュー事業の内容や推進委員の紹介、活動の様子や写真等を掲載したパンフレットを作成し、生涯学習情報コーナーの窓口やイベント開催時に配布することで、事業の周知に努めた。サークル団体との連携により、生涯学習サークル体験事業「サークル体験inみんなの広場」を全4回実施し、参加者へサークル入会に向けたきっかけを提供することができた(参加者数:延べ30人)。	○		●				●	●		●		令和2年度は、生涯学習サークル体験事業の参加サークルに向けて、今後のサークル支援策に関するアンケートを実施した。引き続き、各サークルとの意見交換を行いながら、地域デビュー推進委員会との連携の下、地域デビュー事業と生涯学習サークル体験事業の効果的な連携や、サークルの自主的な活動の支援につながる取組について検討していく。 また、連続講座については、市民の継続的な学習機会を提供するとともに、相互友好協力協定締結大学との連携を図るなど、多様な学習機会の確保に向けて、効果的な展開を図る。 ◆新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、屋外スペースやオンラインでのイベント開催、動画配信など多様な事業実施方法を引き続き検討していく。
2	市民の読書・調査活動への支援		●	図書館	344,317	市民に身近な施設とし、中央図書館と10の分館を運営し、市民の多様な学習ニーズに応えるため、約5万点の図書・雑誌・視聴覚資料を新たに受け入れつつ、年間延べ約194万点の貸出しを行った。緊急事態宣言中等は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館やサービスの一部休止を行った。なお開館に際しては、利用者の安心・安全を考慮し、カウンターへ防護幕を設置するとともに返却された資料を1冊ずつアルコールで拭き取る等、設備や資料の消毒を実施し、感染防止対策を行った。多様な資料要求に的確に応えるため、各種データを整備し、利便性の向上を図った。 職員の人材育成を図るため、定期的な職場内研修を実施するほか、外部研修にも参加した。電子図書館サービスの調査を行った。1才6箇月児健診でブックスタートバックを1040部配布し、乳幼児がいる家庭での読み聞かせを推進した。マルチメディアDAISY図書を新たに作成した。 ※「マルチメディアDAISY図書」とは、文字情報を理解することがむずかしい方をサポートする電子図書です。	○		●				●	●			今後も市民の生涯学習・文化活動・日常生活に欠かせないインフラとして、市民に身近な図書館づくりに努めつつ、生活を支え、暮らしに役立つ魅力的な図書館であり続けるために、各種図書館サービスを実施・充実させる。感染対策を行いながら、非来館型のサービスについても検討していく。 市民からの多様化する資料要求に的確に応えるため、図書・雑誌・地域資料・行政資料・映画資料・電子資料・視聴覚資料などの資料を収集・整理・提供・保存するほか、図書館相互貸借制度などを通して、国・都道府県・市区町村立及び大学図書館と緊密に連携し、市民への資料提供を行う。 高架下資料保存庫の図書収容スペースに不足が生じているため、引き続き、保管場所の確保について庁内関連部署と協議を行い、貴重な市民の共有財産を適切に保存・提供できるようにしていく。 利用者のニーズに応えられるよう創意工夫を凝らし、魅力ある図書館を目指す。	
								0	2	0	0	2	2	0	1	0	計	
								0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	割合(%)	

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「⑥事務事業一覧(施策体系順)」をご参照ください。